

ノーマライゼーション社会 の実現を目指して

中学校 1 年生

－障害者との共生－

I アクティビティーについて

ねらい

障害者の人権について理解を深め、偏見や差別を許さない態度を身に付けさせるとともに、連帯感をもって共に生きる社会づくりを実現しようとする積極的な意欲や態度を育成する。

◆◆◆視点◆◆◆

- ◎共感と連帯感
- コミュニケーション能力
- 参加・参画

設定の理由

この発達段階の生徒は、公共施設等のバリアフリー化の必要性を知的に理解していても、障害者の立場を共感的に理解したり、連帯感をもてたりするまでになっているとはかぎらない。

そこで、障害者が安全に活動できるバリアフリー社会の実現の問題について擬似体験を通して考えさせることで、障害者に対する共感と連帯感をはぐくむとともに、障害者の人権が守られ、安心して暮らせる共生（ノーマライゼーション）社会を目指そうとする態度を育てたい。

アクティビティーの概要 （3時間扱い）

活動1 車いす体験等（擬似体験）の実施 1時間
・車イス体験 アイマスク体験等。



活動2 「話し合い活動」の実施 1時間
・話し合いを通して障害者の日常生活でのバリアについて感じ取る。



活動3 「信頼体験活動」の実施 1時間
・視覚障害者への支援の方法について実際の体験を行う。



活動4 「ふり返り」
・体験活動の結果について話し合い等を通して、見つめる。

アクティビティの実際

- 準備するもの ・車イス 体験で使用するもの 安眠マスク
- アクティビティの進め方

活動1 擬似体験

- ① 車イス体験・アイマスク体験・高齢者体験等を体験させる。
・それぞれ2～3人のグループをつくり、体験役と介助役になり、学校内を歩く。

活動2 話し合い活動

- ① 体験してどんな場所を歩くのが不安であったか、どのように介助してもらおうと安心であったかを話し合わせる。

活動3 信頼体験活動

- ① 信頼体験活動の意義を話し、ルールを説明する。

〔準備〕グループ分け（15人程度）を行い、メンバーの確認をする。

※グループ内で視覚障害者役の生徒1人と介助者役を決定。

〔ルール〕ア 無理をせず、安全な体験をこころがけること。

イ 全員無言で信頼体験活動を行うこと。

ウ 視覚障害者役がアイマスクをつけて、円の中心に入る。

（教師が誘導する）

エ「その他の生徒」で一重の円になり、時計回りに歩く。

オ「その他の生徒」が視覚障害者役の生徒を手を引くなどして、歩いている「その他の生徒」の輪の中に入れてあげる。

カ どのようにしたら、視覚障害者役の生徒が不安を感じずに輪の中に入ることができるかを「その他の生徒」は、自分たちで考え、工夫すること。

- ② 信頼体験活動の実施

活動4 ふり返り

- ① 信頼体験活動のふり返りをする。

<ふり返りの留意点と発問例>

○この体験を通して擬似体験での支援される側と、支援（誘導）する側の違いについて発表させる。

発問例 体験を通して感じたこと、支援の方法について発表しよう。

○障害者とのよりよい共生・連帯の在り方について考えをまとめさせるとともに、態度や行動に結びつけられるよう話し合いを深めさせる。

発問例 今日の学習を通して、発見した（気づいた）こと、努力しようと思ったことを話し合いましょう。

アクティビティを指導するポイント

- ◇ 人権感覚を高めることをねらいとするので、信頼体験に重点を置く。活動に当たっては、見守り役を置くなど、特に安全な支援の方法について配慮をする。
- ◇ ワークシートによるふり返りが重要なので、十分な時間をとり、実施する。
- ◇ 障害者理解を題材とするが、アクティビティを実施することによって、他者との共感と連帯感を高めることを念頭に置く。
- ◇ あくまでも擬似体験であり、現実はもっと厳しい状況であることも考えられるように言葉かけをする。その際、擬似体験後、視覚障害者から話を聞く機会を設定するとより効果がある。

Ⅱ 授業展開例～中学校1学年「学級活動」における授業展開例～

時	学 習 活 動	教師の働きかけ
1	<ul style="list-style-type: none"> ・車イス体験 ・アイマスク体験 ・高齢者体験 	<ul style="list-style-type: none"> ○安全に活動することができるよう配慮する。 ○体験活動から社会生活上の障壁の多さを理解できるようにする。
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>・信頼体験：視覚障害者に対する支援を実行してみよう。 < 駅構内・ショッピングモール等をシミュレーション ></p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 1 体験活動の意義と手順を説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ分けを行いメンバーの確認をする。 ・約束（ルール）を守る。 ・公道、駅構内、商店街等を想定する。 2 障害者（相手）の立場に立って体験する。 <ul style="list-style-type: none"> ・指名された生徒が合図で円内に入り無言で行動 3 支援する立場に立って体験する。 <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の生徒が自主的に支援する。無言で行動する。 4 活動を終えてのふり返りを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートへの記入 ・各自が感じたこと、発見したことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○擬似体験を実施するうえで、誘導するときの支援方法について配慮できるよう指導する。 ○ルールを正確に理解させる。 ○視覚障害者の立場を感じ取らせる。 ○安全に活動することができるよう指導上の配慮をする。 ○支援する立場を体験を通して感じ取らせるとともに、人権感覚を高めるとともに、行動に移せる技能を養う。 ○ふり返り活動を通して、これからの自分の行動について考えを深めさせる。

Ⅲ 資料

信 頼 体 験 （ふ り 返 り 用 紙）

- 1 車イス体験・アイマスク体験を実施したときの感想を書いてみよう。

- 2 （支援される側）信頼体験で、目を閉じて（安眠マスクをして）歩いたときの気持ちを書いてみよう。また、円内に誘導してもらったときの感覚を書いてみよう。（不安感・安心感）

目を閉じて歩いたとき…

円内に誘導してもらった時…

- 3 （支援する側）信頼体験で誘導したときの感想を書いてみよう。

●支援体験をしてみて…

●よりよい支援の方法…

- 4 ふり返り

他者へのやさしさ、思いやりを積極的に行動で示すことができましたか。

あなたにとって新しい発見がありましたか。
